

私のおすすめ この1冊!

歯科衛生士のためのインスツルメンテーション ——解剖学的ポイントと臨床ケースからわかる納得のテクニック

小森朋栄・塩浦有紀・児玉加代子・山口幸子・吉田エミ 著

A4 変判・112頁・定価(本体3,700円+税)
2014年2月4日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

平井 友成

(福岡市中央区/平井歯科クリニック)

本書の概要

歯周治療を進める際に必ず行う処置が歯周基本治療であり、その核となる部分がSRP等の根面の滑沢化である。本書では、より低侵襲な歯周デブライドメントを意識し、「インスツルメンテーション」と表現しているところに、まず著者らのこだわりを感じた。

一般の歯科医院において、歯周基本治療は毎日行われるものであろう。何気なく行っていることも多々ある「インスツルメンテーション」に対して、本書は多くの気づきを与えてくれる。キャリアの浅い歯科衛生士にはヒントが見つかり、ベテランの歯科衛生士には「再点検」という意味で読んでいただきたいところである。

また、普段はインスツルメンテーションを行わない歯科医師にも、手技の確認という点では大いに役立つと思われる。臨床の現場で悩み、取り組んでいる歯科衛生士の気持ちをうかがい知ることができる本書は、先生方にもぜひ手に取り読んでいただきたいと思う次第である。

読み方はいろいろ

本書は前半に総論的な内容があり、それに引き続いて後半は各論と

なる部位別のインスツルメンテーションについて詳細に書かれている。この構成は教科書的に使うことができ、必要な箇所から読むことができる、という点で便利である。

しかし、前半の「0. はじめに」や「1. インスツルメンテーションを行う前に」、「2. インスツルメンテーションの基本」もぜひ読んでいただきたい。

ここでは実際のインスツルメンテーションだけでなく、事前の検査についても言及している。「診断なくして治療なし」と言われるが、闇雲にインスツルメンテーションを行えば良いというものではなく、きちんとした検査・診断のもとに適切に処置を行うことの大切さを述べている。また、器材についても詳しく書かれており、良い治療のためには良い道具が必要であると、改めて認識させられた。

後半の5つの部位別パート(上顎前歯・下顎前歯・小白歯・上顎大白歯・下顎大白歯)については、解剖学的形態の基礎的な話に始まり、臨床例を2つ(難易度別に)提示して解説するまでの一連の流れは非常に読みやすい構成である。異なる著者でありながら統一された内容は、かなり綿密な打ち合わせ・校正を行っ



たことが想像に難くない。歯周治療はチームワークが大切だと考えるが、それが内容に活かされている。

特に、リアルなイメージ図を用いていることは、写真だけではわかりにくい点を解消し、読者の手技向上に一役買っている。このおかげで解剖学的形態と共にイメージを膨らませることができ、インスツルメンテーションの効率化が図れると思われる。

また、所々に記載されているコラムや、それぞれの部位別パートで著者全員の器具選択を示す「My Instruments」というオマケは、本書のおトク感を増している。

二人三脚で読む価値がある

多くの場合、インスツルメンテーションの主役は歯科衛生士であるが、歯科医師と二人三脚で読んでいただけたら……と思っている。

超高齢社会となり、また8020運動の成果で残存歯が増えている現状では、歯周治療はますます重要になってくるとされる。本書は歯周治療を希望する患者と、それを受け持つ歯科医師・歯科衛生士の一助に、きつとなることであろう。